

- ・調査対象 20歳以上の雇用者（就業者から自営業者、家族従業者等を除く）
- ・調査方法 インターネット調査
- ・有効回答数 1,100人
- ・調査時期 2022年7月4日～5日

世の中を読むデータ

自身の市場価値が受け取っている給与よりも高いと認識している人は38.6%

日本生産性本部では、コロナ禍における雇用者の意識を把握することを目的とした「働く人の意識に関する調査」を定期的に行なっている。

今回は、2022年7月に実施された第10回調査の結果から、雇用者自らが考える市場価値についてみてみたい。

労働力としての市場価値

政府は、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（2022年6月7日閣議決定）のなかで、「労働移動の円滑化」を挙げ、働き手のスキルアップ支援、兼業や副業の許容、転職など、企業間の労働移動の円滑化に向けて整備を進めるとしている。

こうした政策を受け、調査では、転職活動の際に重要となる労働力としての雇用者自身の市場価値に対する認識を把握するため、「あなたに勤め先から支払われている給与は、あなたのキャリアや能力、成果から見て、世の中の相場に見合っていると思いますか」という質問を行なっている。

相場より高い……………5.6%
相場に見合っている……………30.3%

結果は、「相場より高いと思う」（5.6%）、「相場に見合っている

と思う」（30.3%）など、自身の市場価値より給与を多く受け取っている、または妥当であるとした人が35.9%、これに対して、「相場よりも低いと思う」、すなわち、自身の市場価値は、現在受け取っている給与よりも高いと認識している人は38.6%となった。

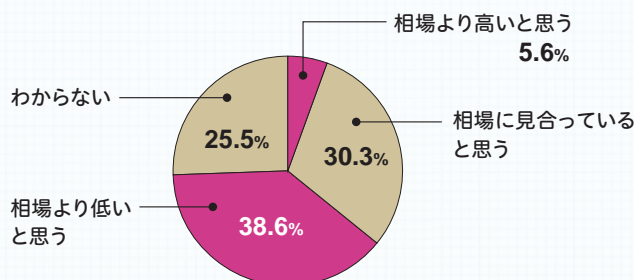
市場価値と転職意向との関係を見ると、「相場より低いと思う」と回答した人の転職意向比率（「転

職をしたいと考えており、現在転職活動をしている」+「いずれ転職をしたいと思っている」）は50.6%と半数を占め、自身の市場価値に見合う職場を求めている人が相対的に多くなっている。

さて、あなたは、自分の市場価値をどのように評価しているだろうか。

（インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊）

自身の給与は相場に見合っているか (n=1,100)



給与と相場のバランス別・転職意向 (「相場より高い」は62人と少数であるため、グラフには表示していない)

